



S.Suzuki

## THE SHION STAKES

## 第9回 紫苑ステークス (GII)

1着 賞 52,000,000円 2着 21,000,000円 3着 13,000,000円 4着 7,800,000円 5着 5,200,000円  
 付加賞 938,000円 268,000円 134,000円



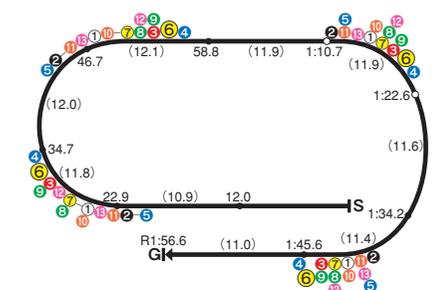
レース映像は  
こちらでご覧  
いただけます。

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬  
 負担重量 馬齢重量

2024.9.7 中山 晴・良 芝2000m (国際) (複定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	クリスマスパレード	牝3	55	石川裕紀人	R1:56.6	2-2-2-2	33.9	460(-2)	6.6⑤	加藤士津八(美浦)	109
2	①	ミアネーロ	牝3	55	津村明秀	クビ	8-9-8-8	33.0	480(+4)	5.6③	林 徹(美浦)	108
3	⑩	ボンダガール	牝3	55	武 豊	1¼	11-11-11-10	33.0	448(-10)	3.0①	手塚貴久(美浦)	106
4	⑨	レイククレセント	牝3	55	佐々木大輔	アタマ	3-3-3-3	33.8	416(-4)	25.3⑧	大竹正博(美浦)	106
5	⑦	フォーザボイズ	牝3	55	C.ルメール	1¼	6-5-5-5	33.8	432(+4)	17.1⑥	加藤征弘(美浦)	
6	⑩	ホーエリート	牝3	55	戸崎圭太	クビ	8-8-8-8	33.6	466(+6)	6.5④	田島俊明(美浦)	
7	③	テリオスサラ	牝3	55	横山武史	クビ	3-3-3-3	34.2	474(-6)	23.0⑦	高柳瑞樹(美浦)	
8	⑦	エラトー	牝3	55	横山和生	クビ	6-7-5-5	34.0	488(-4)	5.2②	上村洋行(栗東)	
9	⑧	ガジュノリ	牝3	55	永野猛蔵	2½	10-10-10-10	33.9	462(-6)	104.5⑨	尾形和幸(美浦)	
10	④	イゾラフェリーチェ	牝3	55	三浦望成	3½	1-1-1-1	35.6	478(-8)	91.3⑩	鹿戸雄一(美浦)	
11	⑩	ハミング	牝3	55	菅原明良	¾	5-5-5-5	35.2	432(±0)	28.2⑨	中内田充正(栗東)	
12	②	バランスダンサー	牝3	55	田辺裕信	½	12-12-13-13	34.4	470(-2)	40.4⑪	久保田貴士(美浦)	
13	⑤	サロニコス	牝3	55	鮫島克駿	4	13-13-11-10	35.3	446(±0)	37.6⑫	松下武士(栗東)	

単勝⑥660円(5<sup>△</sup>※) 複勝⑥190円(5<sup>△</sup>※) ①180円(3<sup>△</sup>※) ⑩140円(1<sup>△</sup>※) 枠連①-⑤790円(3<sup>△</sup>※)  
 馬連①-⑥1,600円(7<sup>△</sup>※) ワイド①-⑥600円(6<sup>△</sup>※) ⑥-⑩460円(3<sup>△</sup>※) ①-⑩460円(2<sup>△</sup>※)  
 馬単①-③3,550円(15<sup>△</sup>※) 3連複①-⑥-⑩2,090円(3<sup>△</sup>※) 3連単⑥-①-⑩13,840円(26<sup>△</sup>※)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m  
 34.7 - 46.7 - 58.8 45.9 - 34.0

### アラカルト

- ・石川裕紀人騎手は紫苑S初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算9勝目
- ・加藤士津八調教師は紫苑S初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算3勝目
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算14勝目
- ・勝ちタイム1:56.6は24年皐月賞でジャスティンミラノが記録した1:57.1を更新するコースレコード。また、18年の本競走でノームコアが記録した1:58.0を更新するレースレコード
- ・クリスマスパレード、ミアネーロ、ボンダガールは秋華賞(GI)に優先出走できる

# クリスマスパレード Christmas Parade

牝 青鹿毛 2021.3.29生  
北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・株G1レーシング 美浦・加藤士津八厩舎  
馬名意味・ツツジ科エリカ属の常緑低木の品種名。母名より連想

ミスエリカUSA系 F2-n

キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー オトメゴコロ
ミスエリカUSA Miss Erika 黒鹿毛 2012	Blame 鹿毛 2006	Arch Liable
	Le Relais 黒鹿毛 2004	Coronado's Quest Malbay

5代までのインブリード: Lyphard S5×S5 Mr.Prospector M5×M5

## INTERVIEW

大谷渡 厩舎長(ノーザンファーム早来)

### とにかく元気な馬でした

母ミスエリカが私が育成スタッフだった頃に携わった馬です。母は前向きな気性だったので、この馬も乗り慣らしから慎重に進めてきましたが、周回調教では跳ねる仕草をみせるなど、とにかく元気な馬でした。キタサンブラック産駒らしい緩さも残っていましたが、年齢を重ねて良くなっていくと思っていたので、この重賞制覇でさらなる活躍も期待できそうです。

M. Yamada



新馬、1勝クラス特別を連勝して挑んだフローラスは0秒3差の4着。榎の女王決定戦への出走をあと一歩で逃した本馬は、ダート路線に活路を求めて関東オークスへ駒を進めたが、結果的には舞台が合わなかった格好で苦しい大敗(9着)を喫した。とはいえ、そんな春の経験を糧とし、この日は着実な地力の強化をアピール。緩みのない流れを自ら演出、2番手追走から押し切る中身の濃い走りで見事なデビュー。最後の二冠へ名乗りをあげた。

## 父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝(ジャパンC<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>2回、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>、大阪杯<sup>G1</sup>、京都大賞典<sup>G2</sup>、スプリングS<sup>G2</sup>)、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、18年から供用〔代表産駒〕イクイノックス(ジャパンC<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>2回、宝塚記念<sup>G1</sup>、ドバイシーマクラシック・首<sup>G1</sup>、東京スポーツ杯2歳S<sup>G2</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup>2着、皐月賞<sup>G1</sup>2着)、ソールオリエンズ(皐月賞<sup>G1</sup>、京成杯<sup>G2</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup>2着、宝塚記念<sup>G1</sup>2着、菊花賞<sup>G1</sup>3着)、ガイアフォース(セントライト記念<sup>G2</sup>、フェブラリーS<sup>G1</sup>2着)、スキルウィング(青葉賞<sup>G2</sup>)、クリスマスパレード(本馬)、ラヴェル(アルテミスS<sup>G2</sup>)、サトノカルナバル(函館2歳S<sup>G2</sup>)、ウィルソンテソーロ(白山大賞典<sup>G3</sup>、マーキュリーC<sup>J</sup><sup>G3</sup>、かきつばた記念<sup>J</sup><sup>G3</sup>)、ジャスティンスカイ(洛陽S・L)、テオオステルス(すばるS・L)、エコロデュエル(京都ジャンプS<sup>J</sup><sup>G3</sup>)

## 母ミスエリカUSA

中央22戦1勝、地方12戦4勝。13年輸入

ミスヨコハマ(20 牝父カレンブラックヒル)中央23戦2勝(赤松賞、すずらん賞<sup>Op</sup>3着)⑧

クリスマスパレード 本馬(21 牝父キタサンブラック)中央4戦3勝(紫苑S<sup>G2</sup>、

水仙賞)、地方1戦0勝 獲得総賞金78,834,000円

デバッグ(22 牝父ダイワメジャー)中央1戦0勝 ⑧

(23 牝父サトノアラジン)

(24 不受胎)

## 祖母ルレ Le Relais

アメリカ産 不出走

ソルダ Soldat(08 牝父War Front)北米4勝(ファウンテンオブユースS<sup>G2</sup>、

ウィズアンティシペーションS<sup>G3</sup>、BCジュベナイルターフ<sup>G2</sup>2着、ピルグリムS<sup>G3</sup>2着)

マイセレクション My Selection(09 牝父Badge of Silver)北米2勝(ビヴ

アリーJルイスS2着)

ミスエリカUSA(12 前出)

## 曾祖母マルベ Malbay

カナダ産 北米1勝(ナタルマS・加L2着、プリンセスエリザベスS・加2着)、

ムレイニーCAN(ダッチェスS・加<sup>3</sup>、ラログネットS・加L、シリーンS・

加<sup>1</sup>3着、マザリーンS・加<sup>1</sup>3着、輸入繁殖牝馬)、シルヴァリーベイ Silvery

Bay(キャンディエクレアS・米3着)の母

## コースレコード勝ちで最後の二冠へ

9月に入ってから厳しい残暑が続くなかで秋の中山開催が開幕。その初日に行われた関東の秋華賞トライアル・紫苑Sは、重賞好走歴を持つ面々と条件戦から名乗りをあげてきた上がり馬が一堂に会し、混戦ムードに包まれた。そんなレースの上位は実績馬が独占。中心勢力の1頭と目されていたフローラスの4着馬クリスマスパレードが、フラワリーCの覇者ミアネーロとの追い比べに競り勝ち、本番の中心勢力の1頭に急浮上した。

軽快なダッシュで飛び出し、すんなりと先手を奪ったイゾラフェリーチェは、開幕週の馬場に緩みのないラップを刻んでレースを先導。スタートを決めたクリスマスパレードの石川裕紀人騎手はこの2番手につけて流れに乗る。1、2勝クラス特別を連勝中で、2番人気に支持された新興勢力の代表格上ラトローはゲートで少し立ち遅れ、中団の内を追走。ミアネーロは後方5、6番手、1番人気の支持を集めたクイーンSの2着馬ポンドガールもその背後でじっくりと末脚を温存した。

前にプレッシャーをかけ、後続に脚を使わせながら運んだ石川騎手は直線入口で先頭へ。鞍上の積極的なリードに心えてクリスマスパレードも息の長い末脚を発揮。3番手から追いつめるレイククレセントを坂の上りで突き放す。かわって襲い掛かってきたミアネーロの追撃も抑え込んだゴールの直後、電光掲示板には走破タイム(1分56秒6)とともに「レコード」の赤い文字が灯った。